

温泉熱の活用によって、冬季でもトマトの生産が可能に！ 壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合（壮瞥町）



【壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合】

【組織等の概要】

- 組合長：中村 博美
- 主な作付品目：トマト（CF桃太郎はるか）
- 組合設立年：1980年（昭和55年）
- 北のクリーン農産物表示制度（YES!clean表示制度）
 - ①登録年月日：2004年（平成16年）2月16日
 - ②登録番号：063-09-11
- 組合加入数：7件
- ハウス棟数：32棟（100坪：10棟、200坪：22棟）

※取材：要相談

【取組の概要】

- ◆ 1980年（昭和55年）、温泉熱を利用した施設野菜の生産を行うため、壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合を設立。
- ◆ 当初はトマトのほかに葉物野菜も生産していたが、収穫時に要する手間や労働力不足のため、現在ではトマトの生産に絞り、品種も「CF桃太郎はるか」で統一している。
- ◆ 2004年（平成16年）には減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、クリーン農業によって生産された北海道独自の認証制度「YES!clean マーク（北のクリーン農産物表示制度）」の認証を受け、環境に優しい農業を行っている。

【施設について】

- 近隣の温泉から約65度の湯をビニールハウス内のチューブに引き、チューブ内の温泉の湯からの放熱により室温を上げることで、冬季の栽培を可能としている。
- ビニールハウス内の温度が25度以上にならないよう、天窓が自動で開閉する温度調整システムを導入している。



【ビニールハウス内のチューブ】

【取組の成果】

- 冬季にトマトの生産を行い、出荷時期を早める（1月下旬から7月下旬）ことで、付加価値をつけることができた。
- 暖房は温泉熱のみを利用しているため、化石燃料を使わず、二酸化炭素を排出しないことにより、環境負荷低減につながっている。



【色づき始めているトマト】



【ハウス内の様子】

【今後の展望】

- 品質管理の向上や省力化のため、今後はICT機器を導入し、ビニールハウス内の温湿度管理や空気中二酸化炭素濃度等の見える化を進めたい。